

トピックス…②

酪農教育ファーム

モデル牧場事業説明・研修会開催

本会は8月31日に東京・京橋のオフィス東京で、平成21年度酪農教育ファームモデル牧場対象事業説明・研修会を開いた。

● モデル事業で情報収集拠点になる24牧場が参加
酪農家の日常が牛乳消費に影響・前田局長

酪農教育ファームモデル牧場対象事業は、農水省の21年度畜産物価格・関連対策「牛乳乳製品消費拡大特別事業」として措置された。事業内容は、先進的な活動を行う酪農教育ファーム認証牧場をモデル牧場に指定し、情報収集拠点として活用するもの。

今回は説明会と研修会の二部構成で行われたが、会場には今年度の地域の酪農教育ファーム活動の模範としてモデル牧場に指定された全国24牧場の酪農家(酪農教育ファームファシリテーター)や、指定団体の担当者ら計50人が参加。研修会では、青森県鯉ヶ沢町の「ABITANIAジャージーファーム」の安原栄蔵代表が事例発表したほか、東京都千代田区立千代田小学校の鈴木映子栄養士が「わくわくモーモースクール」などを絡めた食育活動の様子を説明した。

説明会には農水省牛乳乳製品課、農畜産業振興機構酪農乳業部の担当者が出席して来賓あいさつした後、前田浩史本会事務局長が最近の酪農情勢について説明した。前田局長は酪農教育ファーム活動の意義にふれ、「酪農教育ファーム活動の意義は、経営の付加価値向上、経済的価値以外の教育的価値に代表される農業の多面的機能の発揮、牛乳の消費拡大の3点だ。本会の調査では、主婦が酪農家に対して、酪農家が苦勞をいとわずに仕事に誇りを持って日々、生乳生産に取り組んでいる姿に好感を持ち、それが主婦層の牛乳消費にも影響していることが分かった。酪農家のみなさんは、この意識を持って日々の生産活動に努力してほしい」と述べ、酪農家の日常の姿が牛乳の消費に影響することを指摘した。

● 大人が子供を見守る姿勢が大事・安原氏
酪農体験で牛は温かみある存在に・鈴木氏

研修会で事例発表した「ABITANIAジャージーファーム」の安原代表は、地元の小学生を対象にした酪農体験ワーキングキャンプの活動内容を紹介し、「子供たちを受け入れる場合に大切なのは、大人が手を出さずに見守る姿勢だ。子供が子供らしくなるための障害が取り除かれる、ちょっとした動作を見逃さずに見守ることが大事だ」と述べた。

続いて、区立千代田小学校の鈴木栄養士が「わくわくモーモースクール」を体験した児童の様子や学校給食を通じた食育の実施状況などを説明、「千代田区はオフィス街のため、命の大切さを教えるのは難しいが、わくわくモーモースクールを通じて命の大切さを実感できる体験に取り組んでいる。モーモースクール体験後には、子供の牛に対するイメージは温かみのあるものになっている」と述べ、酪農教育ファーム活動が都心の子供たちに与える精神面の効果を説明した。



事例発表する安原氏(左上)・食育活動報告をする鈴木氏(右上)